

発達障がいの種類

「発達障がい」とは？

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの。(発達障害者支援法による「発達障害」の定義です。)

自閉症

- ・言葉の発達の遅れ
- ・コミュニケーションの障がい
- ・対人関係
- ・社会性の障がい
- ・パターン化した行動、こだわり

アスペルガー症候群

- ・基本的に、言葉の発達の遅れはない
- ・コミュニケーションの障がい
- ・対人関係
- ・社会性の障がい
- ・不器用(言語発達に比べて)
- ・パターン化した行動、興味
- ・関心のかたより

得意なことと不得意なことのアンバランスが目立ってみられ、自分と周囲の人や物事との関係性を読み取りながら行動することが苦手です。

共通する特性

社会性の障がい

社会的に期待されている振る舞いをキャッチすることが苦手です。

- 積極的に人と関わろうとするが、場の空気になんか合いません。(積極・奇異型)
- おとなしく、人の言ひなりになりやすい。(受け身型)
- 常識にとらわれず発想が自由。



コミュニケーションの障がい

相手の立場に立って行動の選択をすることが苦手なため、情緒面での配慮に失敗し、人とのコミュニケーションがとりにくくなってしまいます。

- 興味のあることは一生懸命話す。
- 言葉の理解が素直。
- 相手の表情から気持ちを読み取れない。
- 身振り手振りを使うのが苦手。
- オウム返し



想像力の障がい (特徴的なこだわり)

目の前にないものを想像するのが苦手で、興味の範囲が個別的で限定されやすいため、理解を得にくく、独自の能力が社会で活かされにくいようです。

- いつもどおりの秩序や予定を重んじる。
- 細かいことや特定のことによく気がつく。
- ごっこ遊びをしない。
- 手をひらひらさせるなど、一定の行動を繰り返す。



その他の特性

- 感覚の発達の遅れや過敏さ
手先が不器用、運動が苦手、急にさわられると極端にいやがる、特定の音や光が苦手等。(個人差があり、器用な場合も運動が得意な場合もあります。)
- フラッシュバック
忘れることが苦手なため、いやな記憶が突然よみがえり、パニックになる。

自閉症やアスペルガー症候群等は、総称として広汎性発達障がいと呼ばれます。また、知的発達の遅れがない自閉症は、高機能自閉症と呼ばれる場合があります。さらに、これらを明確には区別せず、連続したものとしてとらえ、一人ひとりの違いに着目する、自閉症スペクトラムという考え方も一般的になりつつあります。

注意欠陥多動性障がい (AD/HD)

脳神経学的な障がいのため、注意力・多動性・衝動性を自分でコントロールするのが苦手です。

不注意

- 忘れ物やケアレスミスが多い。
- 先生の話を中心して聞けない。
- 気が散ってひとりで勉強することが出来ない。



多動性

- 席に座ってられない。
- 座っているときにイスをがたがたさせる。
- 片時もじっとしていない。



衝動性

- 相手の質問の途中で話し始める。
- 急に飛び出す。
- 順番を待つことが苦手。
- しかられると、暴れていやがる。



その一方、行動力があり豊かな発想力をもっています。

学習障がい (LD)

聞く・話す・読む・書く・計算する・推論するなどの特定の能力の習得と使用に困難があります。

- 知的な遅れはないのに、習ったことを覚えられない。
- 文字を正確に、スラスラ読めない。
- 文字を正しく書けない。
- 指を使わないと計算できない。



子どもだけの障がいではありません

発達障がいがあることに気付かず、困難を抱えている人もたくさんいます。

- 発達障がいの特性のために、仕事覚えられない、職場の人間関係でつまづく等。



※個人差が大きいので、ここに示した特性がすべて見られるわけではありません。